

中原区ソーシャルデザインセンター 創出に向けた検討会

中原区役所まちづくり推進部企画課

令和4年4月27日(水)18時30分開会

次第

1. アイスブレイク
2. 本日の目的
3. おさらい
4. 今後のスケジュール
5. イメージ共有
6. ワークショップ (YORIAIでやりたいこと)
7. その他

※グループワークの際等お話しいただく場合以外はミュートでお願いします。事務局の方でミュートにさせていただきます場合がありますが、御理解ください。

1. アイスブレイク

『○○といえバ?』ゲーム

- (1) 3~5人のチームに分ける。
- (2) 職員が「○○といえバ?」と出題(例えば「おにぎりの具といえバ?」など)。
- (3) それぞれ紙に書いてもらう。
- (4) 「せーの」に続いて、一斉に発表(たとえば:「おかか」「ツナマヨ」など)。
- (5) チーム内で同じ答えを書いた人数に応じてポイントが入る。

合計点の多いチームが優勝!

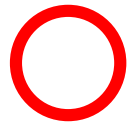
2. 本日の目的

○本日の目的

- ・ SDCの活動内容・運営体制を検討する

3. おさらい

ソーシャルデザインセンターとは・・・ 地域で新しい活動や価値を生み出す基盤 (プラットフォーム)



- ・コミュニティ活動の基盤
- ・地域主体(地域住民)
- ・資源を持ち寄る、
自主財源を探す
- ・コミュニティの基盤
づくりに必要なこと



- コミュニティ活動
- 行政(区役所)
- 行政からの補助金

- 活動場所

3. おさらい

○中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(抜粋)

設置案

地域活動の主体ではなく、地域の活動を**支援するプラットフォーム(基盤)**として、地域のさまざまな人や取組について「知る」「集う」「つながる」機会をつくります。

場所

- ・ 中原市民館ラウンジに設置します。
- ・ オンライン上の場も作ります。

※中原市民館ラウンジは令和3年5月現在、利用できません

主体・運営

- ・ 興味、関心のあることで参加できる自由参加の場とします。
- ・ 参加者がそれぞれの資源を持ち寄り運営します。

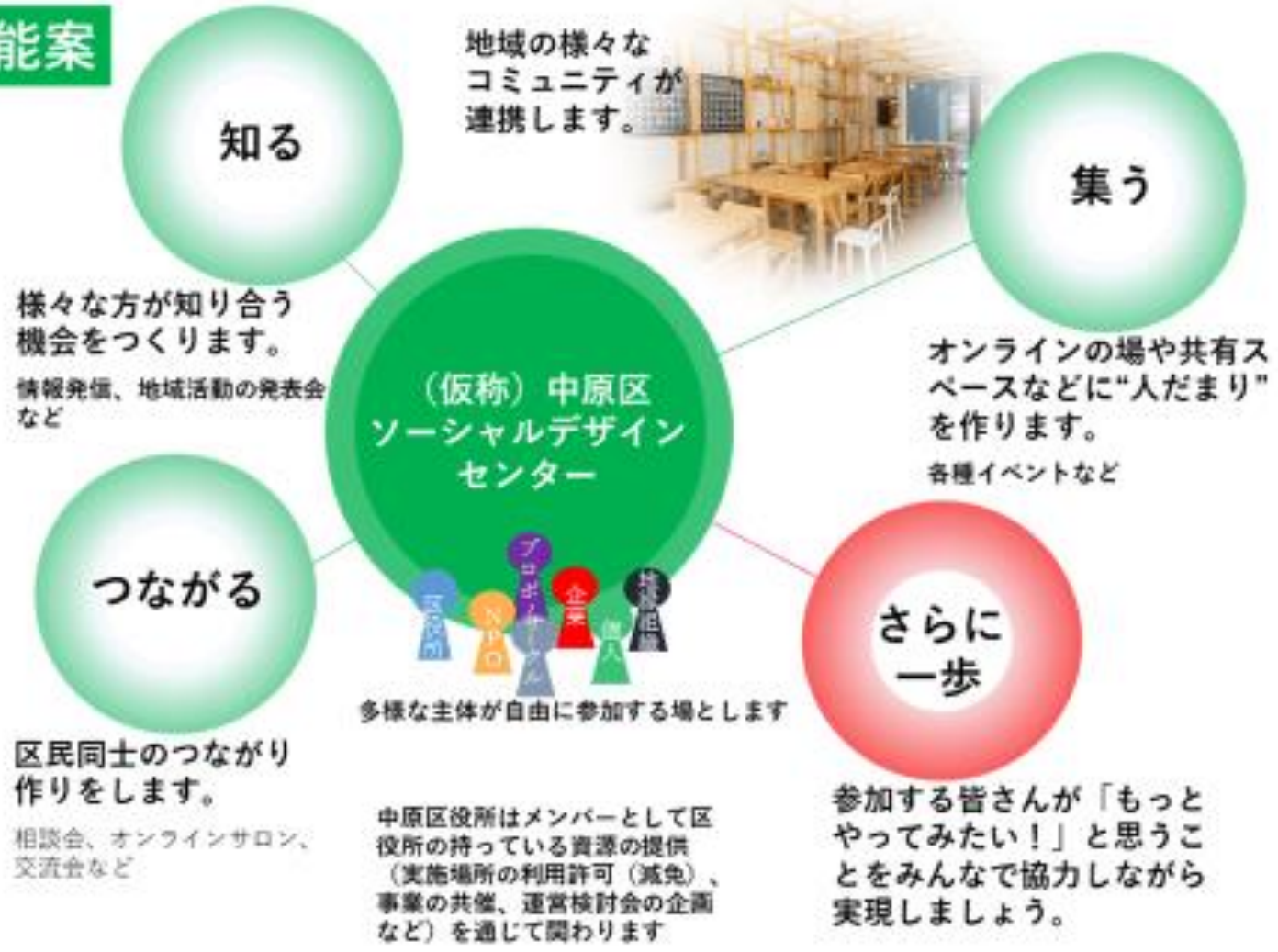
機能

- ・ 情報発信、勉強会、交流会、相談会、シェアオフィスなど「知る」、「集う」、「つながる」を実践します。
- ・ 地域の方同士でコーディネートできる関係づくりを進めます。

3. おさらい

○中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(抜粋)

機能案



3. おさらい

○デッサン修正案(1月21日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会グループノートまとめ)

機能案

○情報収集・発信

- ・発信したい人が集まり、メディアへ情報提供をする
- ・情報へアクセスできる場・媒体を作る(何でも情報SNS、区の情報を気軽に聞ける場、地域課題カタログ)

知る

地域の様々な
コミュニティが
連携します。

集う



(仮称) 中原区
ソーシャルデザイン
センター



多様な主体が自由に参加する場とします

つながる

○場の提供

- ・気軽に集える場(リアルとオンライン)を作る
- ・活動や人がつながる場を作る
- ・活動場所の提供

その他

○マッチング・コーディネート

- ・「人」と「人や情報」をマッチングする
- ・コーディネートを行う(コーディネーターがいる、リンクワーカーがつながる場、コラボ生まれる新しい場を作る)

○中継点(HUB)

- ・地域情報や団体間のHUBとなる

中原区役所はメンバーとして区役所の持っている資源の提供(実施場所の利用許可(減免)、事業の共催、運営検討会の企画など)を通じて関わります



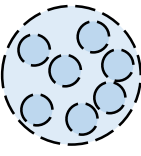
○活動支援

- ・ファーストステップ支援、伴走サポート
- ・スタート時の資金調達支援
- ・試行する機会の提供

3. おさらい

○2月4日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会意見まとめ

- ・意見交換テーマ①<運営の仕組みについて>
- ・運営の仕組みのパターン比較

| 比較の視点 | Aパターン | Bパターン | Cパターン |
|--------------------------------|---|--|--|
| イメージ図 ・概要 |  <p>・各取組をルールだけでゆるく縛る (例: 月1回の定例会で進捗確認する)</p> |  <p>・事務局が各取組の連絡調整を行う</p> |  <p>・1つの団体が各取組含むすべてを直接行う(例: 幸区、多摩区のSDC)</p> |
| 組織としてのわかりやすさ (市民にとっての使いやすさ) | × | △ | ○ |
| 運営への参加しやすさ | ○ | △ | × |
| 運営の始めやすさ | ○ | △ | × |

・前提として検討が必要な課題

- ・デッサン修正案に記載した機能案のうち、どの機能を実践するか
- ・SDC本体の取組と地域活動の区別(各パターンの小さな○は何を指してる?)
- ・既存団体・事業との連携 → 後日Slackで情報交換

3. おさらい

○3月18日検討会の開催結果

- ・実施概要

日時：3月18日 18時30分～20時30分

会場：オンライン

人数：12人

ゲストスピーカー：みやうち地域包括支援
センター 佐藤様

3. おさらい

○みやうち地域包括支援センター活動紹介

・地域包括支援センターは、市内に49か所、区内に6か所あり、1か所あたり5、6名、保健師、看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員（主任ケアマネージャー）、それぞれの資格を持つ地域支援強化要員という専門職が配置されている。

・各専門職が業務を行っており、大きく分けると、総合相談・支援事業（市の委託を受けて行う相談業務）、介護予防指定事業の指定を受けて行う要支援1、2の方のケアプランの作成業務の2枚看板で行っている。

・これに加え、社会福祉士による権利擁護事業（成年後見人制度や消費者被害の相談を受けて専門機関につなぐ相談支援）、主任ケアマネージャーによる包括的・継続的ケアマネジメント支援（地域のケアマネージャー等への支援）、保健師又は看護師による介護予防事業（サロンやカフェ等介護にならないで過ごすための支援）を行っており、住民の支援につながるよう、行政、介護保険事業所、地域の担い手とのハブ機能を担っている。

3. おさらい

○みやうち地域包括支援センター活動紹介

・地域の方々が元気に暮らしていけるようサロンを運営しているが、参加者がお客さんで終わらないよう、参加者に担い手になってもらいたい。また、健康マージャンも今は自分達が運営しているが、参加者が主催してくれるようにしていきたいが、お客さんなら来るけど、開催はやっぱり…という方多い。

・やりたい人とやれそうな人がマッチングして包括では場所を貸すといった関わり方になり、多様な担い手が地域から出てほしいと考えて取り組んでおり、SDCが取り組もうとしていることと、活動趣旨は遠くないと思う。

3. おさらい

○創出に向けた検討の流れ(案)

前
回
の
議
題

スモールスタートでまずやってみる取組を決める



取組を回していく運営の仕組みを決める



必要最低限のルール（どんな取組がSDCの取組と名乗れるか等）を決める



まずはスモールスタート！！

I. 中原SDCの目的/存在意義

①社会背景

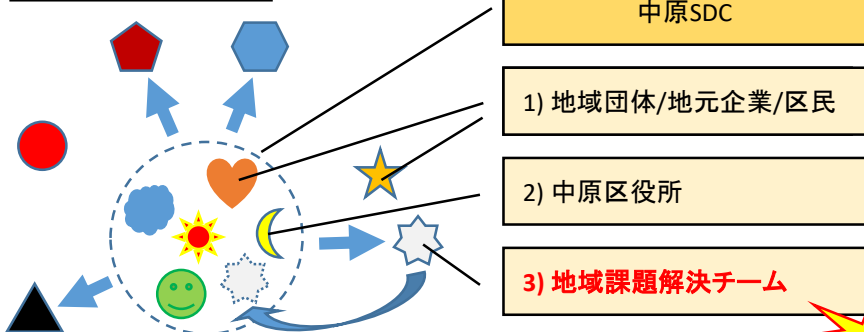
- ・価値観の多様化から従来の画一的な行政サービスが限界化
- ・超高齢社会、ポスト成長時代における豊かな生き方の模索

②目的/存在意義

- ・自分たちの町の課題は自分たちで解決する、の実現
 ~『知る・集う・つながる』をもっと効率化するための知恵やアイデアを持ち寄る
 それを実現するための新しい仕組みを創り出す
- ・多世代が関わり、寛容で親しみやすい組織

II. 中原SDCの体制

①各組織の位置付け



論点

②地域課題解決チーム

- ・中原SDCから生み出された、課題解決の仕組みを実現する主体
- ・中原SDC内で、a) 課題提起、b) 解決方針の刷り合せ、c) チームアップがなされれば活動開始
- ・現状は「なかはら盛り上げ隊」「超」ローカルかわら版

③中原SDCの活動内容

論点

- 1) “YORIAI”の実施(寄合い/燃り愛)
 - ・顔を合わせることでこそアイデアが生まれる
 - ・定期活動日を設定するものの、参加は任意・広く区内に告知(第一金曜・第三木曜など)
 - ・コンテンツ
 - a) 中間支援活動 勉強会
 中間支援団体(?)を招き、その取組と位置付けの理解を深める
 - b) 市民活動団体 交流会
 市民活動団体を招き、活動の紹介や告知を実施
 - c) 課題解決グループワーク(任意参加)
 市民活動をする中での困りごと、あったらいいなについてディスカッション
 - d) …
- 2) 地域課題解決チーム分科会
 - ・取り組みたい課題が共有できたチームは、個別に検討推進
 - ・区役所含む中原SDCメンバに随時相談可能
- 3) …

④運営体制

- ・事務局業務は最小限の業務とし、中原SDCメンバで持ち回り
- ・～YORIAIの各種手配や当日のファシリテーション
- ・区民への告知は、超かわら版を活用

論点

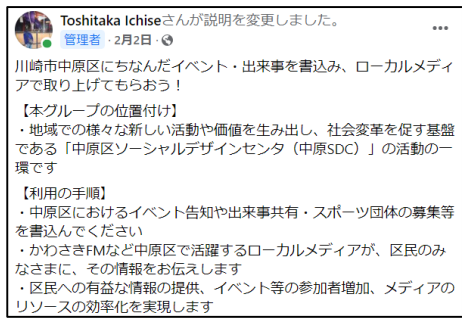
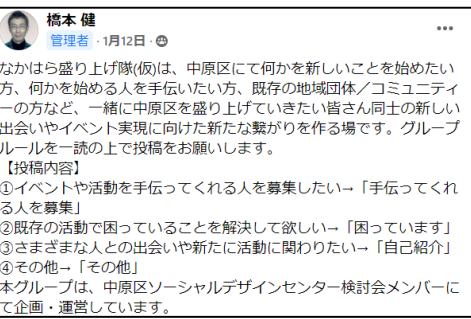
III. 活動場所

- ①主たる活動場所
 - ・リアル: 中原市民館、オンライン: Facebook(案)
- ②従たる活動場所
 - ・リアル: おおきな木ほか区内5地域に一つずつ設置
 - ・オンライン: Twitter、Instagram

IV. スケジュール感

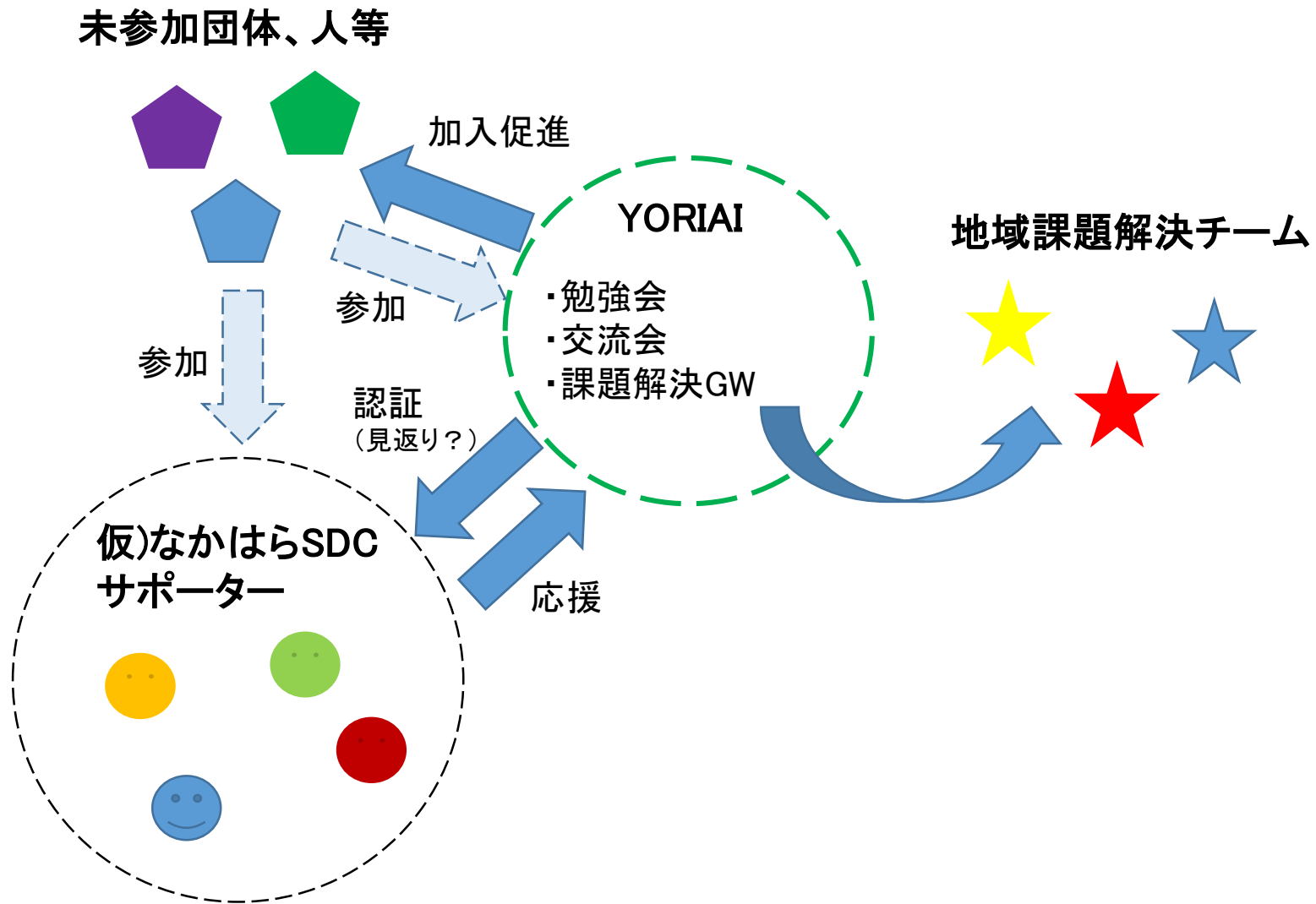
- 【2022/4(or 5)～】中原SDC設置宣言
- ・市民館確保、Facebook整備、広報開始(超かわら版)
- ・YORIAI準備開始、課題解決チーム組成(あと1-2チーム)
- 【2022/10～】中原SDC活動開始
- ・YORIAI_1st 開催

論点



3. おさらい

○まずやってみる取組(中原区SDC企画案)について



3. おさらい

○意見交換<まずやってみる取組について>【検討会ノート】

●意見交換

<まずやってみる取組について>

- ・YORIAIを行いながら地域活動解決チームを生み出す等の活動を行う形でスモールスタートできればと思うがどうか。
- ・(全員)異議なし
- ・その次の運営体制については、輪番で持ち回りでできるような形で行えればと思うがどうか。
- ・③活動内容まで賛成。運営体制となると反対。まだ早い。この場にいるような人に参加してほしい。全包括・社協がまだ来ていない。麻生は全部来ている。他にも同じような活動をしている人達がいる。その勉強会を重ねるまでは区で事務局をしてほしい。
- ・社協や包括のセンター長会議にもこの取り組みに関して声かけはしている。活動の参加が広がっていければと思っているが、この場の趣旨として強制参加の場にはできない。いつまでも勉強会でスタートを切れないうというジレンマもあると思う。

- ・今日の勉強と同じことを、区役所が関わらない形は難しいと思っているということか。
- ・言葉を選ばずに言うと、無責任かなと思っている。核となる人達との合意ができていない中でスタートするのがどうかと思う。税金で仕事をしている包括や市民活動センターの人達がSDCで有給で活動することもあり得る。税金で働く人達をサポートするのか、市民が主体的に動くのかをまだ相談できていないので、そこまでの調整を区役所が行ってほしい。
- ・事務局機能として、①対外的な事務局機能、②内部的な事務局機能がある。①を一市民が担うのは難しいかも。包括に呼び掛けする等対外的な部分を区役所が担ってもらえるとよいと思う。一方で、区役所が頼むと強制的な感じになってしまうが、積極的な気持ちで関わってもらえる方であれば、一区民が誘っても来てくれるとは思っている。そこにどう移行するかという問題があり悩ましい。
- ・区役所が事務局をやりたくないというわけではない。個人的には、仕事してお願いすると、委託業務の人工等課題があり法人の立場としては難しい部分もあるのではないかと思う。思いのある人が個人的に参加できるSDCの価値を生み出していきたい。

3. おさらい

○意見交換<まずやってみる取組について>【検討会ノート】

- ・勉強会をする時のように、対外的な声掛けには当然区も関わる。SDCIはあくまで市民活動であり、スタートは自由参加で、交流を通じて価値を深めていくことを目指している。まずはできるところから、やっていけないか。
- ・スモールスタートで全く問題なくスタートできると思う。私がイベントするとき、主催に入っていなくてもフェイストゥフェイスで協力をお願いすれば商店街や町内会は気持ちよく手伝ってくれる。組織は無数にある。やりたいことに応じて、そうした組織に声をかけ、つなぎ、実現する。区役所が声掛けをしないといけないということも全くない。
- ・企画したい人が参加者を募れたり、相談できたりするとよい。勉強会も大事だが、みんなが持っている知識を、時と場合に応じて共有していくのでいいのでは。興味があることに対してはみんな意欲的になり、勉強会や企画も自発的に生まれるのではないか。区役所が入ると顔色を見て遠慮してしまう部分もある。区役所の人個人として参加してもらえるとよい。
- ・包括に来ていただいたが、その立場の人にも一緒に検討してもらいたい。既存団体を巻き込んでいけないか。SDCができることで既存団体が浮いてしまう印象。それぞれの責任者が入ってディスカッションする場があってもよいのでは。

- ・とりあえず始めるのでも、一回関係者集めるのでも正直どちらでもよい。税金でまちづくりをやらなければいけない立場の人達から自分達はこまですてきますという話を聞いて、市民としてはこういうノウハウがあり、一緒にやっていきましょうかというまちづくりのベースがない中で運営始めてよいのか疑問。
- ・欠けている部分の認識はした上で、走れるところから走ってもよいと思うが、ただその部分は置いていかないでほしい。
- ・お試しでも具体的な取組を行い、SDCというものを具体的に説明できるようにして包括などに声かけをしていけたらと思う。まずは取組を進めていかないと、地域の仲間も増えないかもしれない。持ち回り等でプレでもスモールスタートしていけないか。もちろん区からのフォローもしていくので、そういう形で進められたらと思うがどうか。
- ・(全員)異議なし
- ・社会背景として、一番重要だと感じているが、価値観の多様化から従来の画一的行政サービスでは限界が来ている中で、SDCのような市民活動をこしらえられたらよいのかなと感じている。その中で、既存の団体を無視するのではなく、タイアップしていけたら。今日の包括の悩み事等を一緒に考えて、実績を積み重ねて価値を見出していくことが重要。YORIALをいつにするかは今後の話になるかと思っている。

3. おさらい

○意見交換<まずやってみる取組について>【検討会ノート】

- ・市民活動センターとして参加できるかどうかは、一度持ち帰って検討させてもらいたい。
- ・今後のスケジュール感。4~5月からお試して、勉強会や交流会、困り事を共有の辺りの検討から進めていければ。まずはこのぐらいの緩さでスタートできれば。
- ・包括は担い手探している。見に行っても対応してもらうのは難しい。業務が広がり過ぎて残業も多いし、昼間は走り回っている。やめておいたほうがいい。今回のSDCはすごいと思う。我々が最初にあげたやりたいことと包括などをマッチングできたら良い。初めは全員でやってみてリーダーを決めたらよい。そこには発信力がある区役所も入って。
- ・期限付きのスモールスタートに賛成。包括の話でもあったが、お客として参加するのはいいが、自分がやるのは...という思いは共感。一方この場に参加しているように何かできたらという思いとで揺れる思いがある。行政の限界を市民でカバーという話もあった(チャットで)が、自分に何ができるのかSDCをやりながら学び実現していきたい。それが参加者としての自己実現にもつながる。
- ・自己実現につながる取組にしていければ。すべての方が関わって良かったなと感じられるように。

- ・市と市民の協働の取組は20年程前から行われているが、行政がお膳立てをするものであった。今のこのやり方は、成功しても失敗しても素晴らしいと思う。中原区らしい。とは言え市民から見れば同じように見えて、注目されていくことになる。何がやりたいのかということ、今までの取組を踏まえて、私達が意識して説明していく責任と義務がある。事件は現場で起こっている。課題共有しながら試行錯誤してやっていく。体を動かすことが必要で、それを大切にしていきたい。今週末の井田山の会合で、SDCが始まること、SDCの方が興味を持っていることも説明したいと思う。
- ・地域の役に立ちたいので、できることをやりたい。前回紹介のあった井田山に行ってみて楽しかった。友達も誘っていきたい。「市民健康の森」の活動に関わっていきたい。

4. 今後のスケジュール

| R4年 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月~ |
|-----------|----|----|-----------------|----|----|----|------------------|
| | | | | | | | |
| 取組案の検討 | | | 仮)中原区SDC 準備会 | | | | 仮)中原区SDC 活動開始 |
| | 今回 | | | | | | |

・活動開始までのスケジュール

→6月から準備会として進め、10月から活動開始

・今後の開催日程について(毎月第〇週〇曜日)

→参加しやすさ等も考慮し、日程を固定した方がよいのでは？

(6月市政だよりでの広報を予定しており、2か月前には情報が必要)

令和3年度中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた取組状況

1 取組概要

(1) 目的・概要

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」において、市民創発によって課題解決する区域レベルの新たな取組として創出することとされた「ソーシャルデザインセンター」について、令和4年度の活動開始に向けて次の取組を行った。

(2) 令和3年度取組経過

ア 「中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン」(仕様案)作成
令和3年5月に中原区のソーシャルデザインセンター創出に向けた案を下描きとして「知る」「集う」「つながる」を主な機能として示す「中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(以下「デッサン」)」を作成。

イ 区民説明会(7月16日 39名参加)

「デッサン」に基づき説明会を開催

・当日のアンケート結果(抜粋)

きっかけづくりや連携強化、**取組の実践**への関心が**高い**。一方で、人材育成や助言など地域の活動に**間接的に関わる機能**については関心が**低い**結果となった。
⇒区民の方とSDCの取組を検討するにあたり、SDCが担うべき支援の取組について直接検討するのではなく、地域活動の実践等区民の方が**興味のあることと関連付けて**検討できる仕組みづくりが必要と考えた。

⇒SDC創出に向けた区民の方との検討の方向性

まず、区役所が調整役となり地域活動を生み出す**SDCの機能を体験する機会(意見交換会)を設け、それを踏まえSDCの機能、運営体制を検討(検討会)。**

ウ 意見交換会(8月20日～12月17日 計5回 延べ参加者数94人)

区民の方向士の意見交換により地域活動を生み出す取組を実践。
⇒「超”ローカルかわら版」、 「なかはら盛り上げ隊」等の取組を検討・創出

エ 検討会(1月21日～3月18日 計5回 延べ参加者数60人)

はじめに、意見交換会の成果報告を行い、以降、**SDC機能、運営体制を検討。**
⇒「デッサン」で示した機能の修正案を取りまとめ(別紙「デッサン修正案」)、**これから実践する取組を決定。**

オ 庁内検討プロジェクト(9月27日、11月29日)開催

SDC創出に向けた課題を関係部署職員にて共有・検討
→グランドルールの必要性・決め方・定める事項、コーディネートの必要性等

カ こすぎの大学主催:中原区ソーシャルデザインセンター検討ワークショップ(10月23日、11月6日)

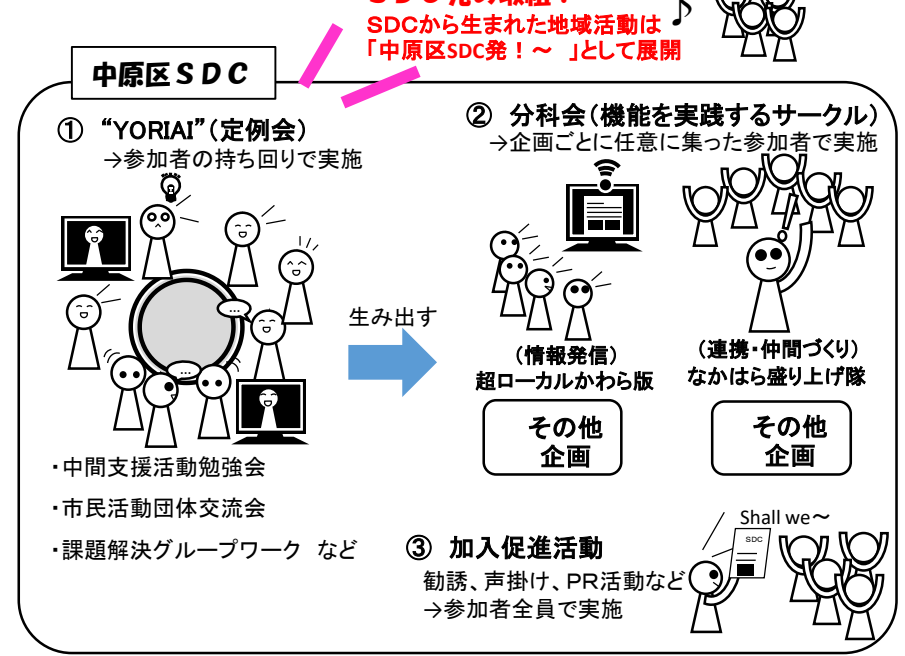
区民意見交換会を補完し、中原区らしいSDCを創出することを目的として武蔵小杉で活動している「こすぎの大学」が自主的に実施。
幸区SDC「まちのおと」コーディネーター岩川氏、地域で人のつながりを生むプロジェクト「100人カイギ」発起人高嶋氏から事例紹介を受け、中原区SDCで各自がやりたいことのイメージを共有し、参加者がSDCでやりたい取組を時間割にするワークショップを実施。

2 取組結果

(1) 取組の方向性

- ・「知る」、「集う」、「つながる」、「その他」の機能(「別紙デッサン修正案」)を実践する。
- ・今ある資源でできることからスモールスタートする。
→区役所もメンバーとして参加しながら、市からの補助金等に頼らず運営する。

(2) 体制イメージ図



(3) 活動開始に向けた検討事項

活動期限、YORIAIの企画詳細、事務局役割分担、SDC参加のルール など

6. ワークショップ

YORIAI(定例会)について

○『知る・集う・つながる』をもっと効率化するための知恵やアイデアを持ち寄る場として

YORIAI(定例会)を実施

定期的な活動日は設定するものの、参加は任意とし、広く区内に告知する

・現在想定しているコンテンツ

a) 中間支援活動 勉強会

中間支援団体(?)を招き、その取組と位置付けの理解を深める

b) 市民活動団体 交流会

市民活動団体を招き、活動の紹介や告知を実施

c) 課題解決グループワーク

市民活動をする中での困りごと、あったらいいなについてディスカッション



このコンテンツの中からグループに分かれてやってみたい企画を考える

6. ワークショップ

<YORIAIでやりたいことの企画提案ワークショップ>〔45分〕

○目的：YORIAIのコンテンツの中で実際にやってみたい企画を考える

グループ1：勉強会、グループ2：交流会、グループ3：課題解決GW、その他グループ

自己紹介等
(5分)

- ・自己紹介：「名前+所属(あれば)+参加したきっかけ(新規の方のみ)」を1人1分で
- ・進行役、書記、発表者を決定

グループワーク
(30分)

- ・『コンテンツごとにやりたいこと』を検討する
→これまでの検討状況等を踏まえ、それぞれのイメージを1人2分で発表する
- ・ワークシートを使いながら、グループ内で意見交換
- ・企画の具体化を進める

全体共有
(10分)

- ・各グループごとにアイデアを全体に共有する(1グループ×3分程度)

その他

- ・調整さん決め

○ゴール：実施するアイデアを決め、具体的な計画が立てられるようにする

6. ワークショップ

グループワークのルール

- ① 批判しない
- ② 自由な意見、相乗りOK
- ③ ほかの人の話には、身振り、拍手など、
大きなリアクションで
- ④ 今回の内容は公表します。また、出されたアイデア等は
参加者全員の共有のものとなります。

<YORIAIでやりたいことの企画提案ワークショップ>ワークシート

グループ№

メンバー:

| | | | | |
|-------|------|-------|----|----|
| (進行係) | (書記) | (発表者) | さん | さん |
| さん | さん | さん | さん | さん |

企画名:【

】

| | |
|------------------------|--|
| 何を? (企画内容) | |
| 何のため? (目的、効果) | |
| いつ? (時期、頻度) | |
| どこで? (開催場所) | |
| 誰に? (対象者) | |
| どのように? (実施体制、役割等) | |
| その他 (実施に向け必要なもの・こと) | |

●次回の調整さん:

ノート（自由に活用ください）

7. その他

○活動報告

- ・超かわら版
- ・なかはら盛り上げ隊
- ・その他の活動紹介

○運営体制・進め方

- ・検討メンバーの選出
 - 希望する検討メンバーで、Slackでの報告・意見募集
- ・実施方法は持ち回りでよいか
- ・どんな役割があるか(日程調整・周知、内容の企画、会場の準備、当日の進行、その他)
- ・参加者の募集について

次回日程

○5月の集まりの開催について

日時:

会場: 中原区役所

議題: 分科会(サークル活動)について

おわりに

ご不明な点やご意見、また、新しい参加者のご紹介も常時歓迎しておりますので、何かございましたら、中原区役所企画課までご連絡くださいますようお願いいたします。

今日は
ありがとうございました

